

下芦名沢自治会の取り組み

今回は、十和田地区の「下芦名沢自治会」における集落支援員活動事業と市の補助制度を活用した取り組みをご紹介します。

取組内容

下芦名沢自治会では、市指定無形民俗文化財「芦名沢太鼓」を継承する取り組みの一環として、練習場所に向かう道路の環境整備を行いました。

夜に行われる太鼓の練習のため、足場の悪い急な階段に手すりを設置したことで、子どもや高齢者が安全に階段を昇り降りでき、今後の練習にもより熱が入ることが期待されます。また、自治会が協力して活動に取り組んだことで、さらなる地域コミュニティの活力再生に繋がっています。

下芦名沢自治会長から

新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、昨年度以上に自治会員との交流を深め、会員全員で協力して、楽しい自治会活動に取り組んでいきたいと思っています。



(右) 道路の砂利敷き作業
(下) 階段に手すりを設置



下芦名沢自治会
32世帯
約70人

集落支援員活動事業

集落支援員は、自治会の現状を把握するための「状況調査」を行い、調査結果を基に自治会の現状や課題、将来の自治会像などについて「話し合い」と「活性化活動」への取り組みを支援します。小規模な自治会（50世帯未満）を中心に支援しています。活用を検討される自治会は、お気軽にお問い合わせください。

鹿角にはユネスコ無形文化遺産をはじめ、地域の伝統文化や歴史遺産が市内各所に点在しており、歴史ロマンを感じる地として注目されています。

市民の皆さん自ら魅力を伝えるきっかけに

「市民全員ガイド化計画」では、市民全員がガイドとして、鹿角の魅力を再発見し、市内外に発信するきっかけとなるよう、市内観光名所や歴史・文化、産業遺産などをシリーズで紹介していきます。

このコラムを通じて、鹿角は魅力ある地となり得る可能性を秘めていることを再認識し、鹿角の観光を盛り上げ、地域活性化につなげていきましょう。

また、独自の地域色を持つ文化遺産や歴史遺産などを観光資源として活用し、「ヘリテージ・ツーリズム」として推進することで、多くの観光客を呼び込む取り組みを展開します。



史跡尾去沢鉱山は、地底探検さながらに坑道見学ができる鉱山テーマパークとして広く親しまれています。

①史跡尾去沢鉱山

鹿角と日本の産業を支えた鉱山

尾去沢鉱山は西暦708年に発見され、発見当時は金山として奈良東大寺の大仏鑄造や平泉の黄金文化にも貢献したと伝えられています。鉱山から豊富に産出する銅は、藩政時代には長崎貿易にも用いられ、明治以降も日本の近代化や戦後の高度経済成長を支えました。尾去沢や花輪の町も鉱山の下に発展し、祭りや風習など独自の文化が生まれたとされています。

尾去沢鉱山は、マグマが岩盤に脈のように染み入った鉱脈型で、坑道の総延長は国内最大級で約800kmにもおよびます。今でも、手掘りの採掘跡や坑道がそのまま残り、これらの貴重な遺構は近代化産業遺産に認定されています。

鹿角を知る・伝える

市民全員ガイド化計画

MY-SOPRON-LIFE

(私のショプロン生活)

日本語学指導員現地レポート
第11代日本語学指導員 戸脇美夢さん

三重県出身。留学経験を経て、国際教養大学専門職大学院にて日本語教育を学び、多くの異文化交流イベントの企画・運営に携わるなど、豊富な国際交流経験を活かし渡航。



ショプロン市は気温が10度以上になる日が続き、だんだん春らしくなってきました。4月にはハンガリーでクリスマスの次に重要なイベント「イースター」がありました。最近では、日本でも知名度が上がってきていますが、イースターは十字架にかけられたイエス・キリストが復活したことを祝うお祭りであり、春の訪れを祝う日でもあります。

イースターの時期が近づくとスーパーにカラフルなお菓子が並び、アパートでもドアにイースター飾りをかける家庭が増えてきます。お菓子はうさぎやカエル、卵の形をしたチョコレイトがほとんどで、中でも一番面白いと思ったのが卵パックに入った卵の形のチョコレイトです。ハンガリーではありとあらゆる行事にチョコレイトが欠かせない気がします。

イースターの定番料理は豚肉の燻製ハムとゆで卵です。ハムはトルマという西洋わさびと一緒にいただきます。日本のわさびに味が似ていますが、酸味が強いです。



日本語教室の生徒たち



イースターの夕食

トルマはスーパーでよく見かけるので、ハンガリーの食卓には欠かせないものなのかもしれません。そして、イースター後には「ロチョラッシュ」という面白い習慣があります。「花に水をやる」という意味で、女性を花に見立て、いつまでも美しくいてほしいという願いを込めて、男性が女性に香水をかけます。そして、女性は男性にお返しとしてイースターエッグをプレゼントします。この日は生徒と近所の方がアパートまで来てくれて、香水をかけてくれました。昔は香水ではなく水をかけていたそうで、地域によっては今でもバケツいっぱいの水をかける場所もあるそうです。国によってさまざまな習慣があつて面白いですね。

ブログ公開中 <https://my-sopron-life.blogspot.com/> ぜひご覧ください。

世界遺産登録に向けて

大湯ストーンサークル館 ☎ 37-3822

世界遺産

大湯環状列石

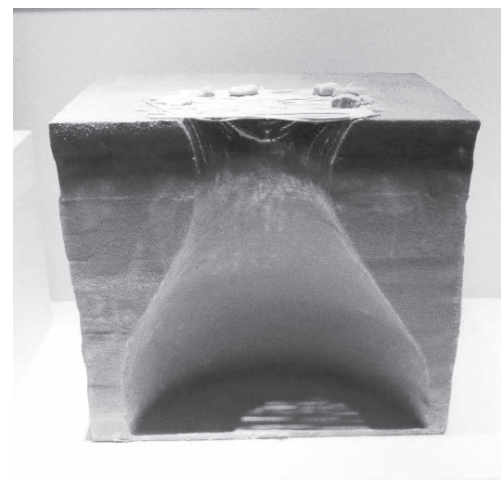
世界遺産登録に向けた取り組み

大湯環状列石の遺構② 「フラスコ状土坑」

大湯環状列石では、入り口が狭く、底が広い、理科の授業で使う三角フラスコのような形をした穴が298基見つかっています。フラスコ状土坑と呼ばれるこの穴は、深さが約1・5メートルあり、土坑内からは炭化したクリやブナ、トリノキなどの木の実が出土していることから、木の実などを保存するための貯蔵庫であった可能性が高いとされています。

穴の中は外気温の影響を受けにくく、夏は涼しく、冬は凍りにくい温度を保つため食料の保存に適しています。穴からは土器も見つかっていて、直に木の実を置いていたのではなく、土器などの容器に入れて保存をしていたと考えられます。

フラスコ状土坑は貯蔵庫と考え



大湯ストーンサークル館に展示しているフラスコ状土坑

